神國女訓抄

京
198

国立国会図書館藏

国立国会図書館　タイトル『神国女訓抄』　請求記号 京-198

ガラス使用

No 15174

神国女訓抄

山口日向守著

序

かゝるこのはゝ律里下ゝ生み給ふ
里ゝ義を施すハ人師の軌範なり
もし其ゆゑを乃地にすんハ部ゝを
して迷ハゝ人の邪路を
ゝ悟ら所情なり
大日本と特

阿波國文庫
不忍文庫

国立国会図書館　タイトル『神国女訓抄』　請求記号 京-198
ガラス使用

神国と称する所以は開闢乃運出
の性神妙不測なり
神皇流
御代霊威ふ迷ハやや唱呼天乃益
人皆て地の霊気ハ言葉明れ
光耀を極ふ神道ハ信ぜざ人ハ
永く生死の苦ハ沉こ根出屋回ハ

さるよ出ん雖の一言を思懼ざ人
世の苦中世を釋氏方便説の
出ハて乃外ハ佛法を従ふ稱
土の名ハ淨土示す彼を面里此を捨
云ふ心祝を西方乃極楽
おのりの中を賤と神祇を軽慢

すかゞの如きは時を唯我神道に拠らしむく
のミにあらず法身寛哉乃まことを失
ふ是三寶の罪人なるべし乱世極悪
乃衆生にハとやかく利すべからずあらせ
ばいかにせや　神実の霊徳を
以て法度乃民草に賞罰厳明せし

てたゞ罪を犯すものあるハ一罪宣咒
謹しめ給へバ天竺人のごとくうかく
も五逆十罪ハつくるものなし閻王
乃裁断あるかことや無世時に生き
て下不下生をあやまちけるかし
恐る乃一僧侶乱世臨機乃説を致

す上を高み遠き下に水を顧すん人
を誣る事は能中に不足ハ女人を
親く釋氏ハ五障を説く是全く水土
乃変異なるに女性乃差別ハ天濃地
みなす能く能ず凡夫ハ是ハ
須臾一二乃女子乃高ミ高ミ乃地乃

大国高祖ハ神国女訓抄を号作給ふ
言葉ハ少く高ミ乃行を左乃如く
一助乃歌ハ弘和二年百年至
摂州住人宮弥三郎
山内四郎左衛門尉

神国女訓抄

抑吾大日本国を天壌の乃中洲国ふ
て唐土天竺れ法国にくを猶を掛を最き
天照皇太神の神孫瑞こ杵皇天降を後し
まを〳〵神王ふ〳〵て皇統天地とこを後り
ふに蒼域をを〳〵 皇太神ハ女神ふく
おを〳〵後〳〵法中ふ陽徳を具しぬひ玄金
の神徳金く光義ぬ彩六合の内ふ照徹ぬ
伊弉諾伊弉冊の二神天の柱紙ふく天れ

上ふをくるをあしげのひてようの永く天地を照し
ゆく是今日の日神ふくゆ神ゆくゆ神ゆくゆ
神神の神子孫永く天地と共みのくらゐく
宮殿にたかせゆく人上の天子より月卿
雲客皆眉をあつめ神ゆく神ゆく神薗黒坂
召しゆく皆女人乃宮殿ゆ恐じて
主上の神側殿の神殿或の内侍所よりて
八咫の神鏡を奉きなり及神璽宝剣を
供奉し或ハ奏請宣旨禁内徒式宮内

管掌せゆく是皆天祖天照大神女神女神ゆく
管掌せゆく是皆天祖天照大神女神ゆく
ましと其神神嵐なるゆ人に女人を親しく
用ひゆ法なるゆ唐土なるも吾朝とさし
て女王国ともゆ姫氏ともゆ称しなるとゆや
ひゆく祈禱神変ゆ女人を尊とをんな
こと神代より古実なり神天照大神神宮
素戔嗚尊の乱逆行迹成業悩ましく天乃
石窟ゆ幽居ゆひしゆ六合常闇となり

至秋乃相代事之高〻ぶるそれハ百姓神
等種〻猶重ねをもて其驗しるつまし江
女神ふ天細女命とりありてふ茅纏乃
鞆を招天香ふのまゝ榊をふり髮しるし
日蔭茅をゑ弦みかけ篝燎を焼舞踊て
てたくみふ俳優をると此それ日神神ゑを
ちらく磐戸を細目み開きみそるつし
再び天地をてゝしるひてわでそさ沛代
とゑう伝りしもそゝへみ天細女命神楽

を、いく方神の御心にもしたがはぬ御徒なり其後神祇を崇めまはぬ女人を用る事なり人皇第一神武天皇朝敵退治の御祈禱の御時和州丹生川上に御ましまして天神地祇を崇めまつり給ふ道の御命令勅ありて齋主となり嚴媛の号を授ぬ

しも軍出し女人なるゆへに道の御命をかとるべし崇めまつり給ふ御徒なり神功皇后三韓御退治のとき神祇を崇めまつりし皇后親神主となりぬ嚴媛の号を授

けぬ事なり仲哀の御宮加茂の御院なひ大和忌子良皆女人を以神を崇めまつり給ふ事なり

吾神乃ゐく女人を崇め事なるを強ふ中世より神乃御くわろ人の心根ゆがみ本を忘れ末にのみ甚虚ふ楽して道様の方便門弘ゐを女人に障三従の罪深く神ゐを崇れば神罰成蒙る障らん神よたりるし只佛ゐ大悲の恵深しとび衆生を海なし救ひ給ふのゐふして罪を尚ぬ事なく別して罪深

女人なることば如来の誓願をいくゝをを轉し男と
なし成仏せしめ給ふ佛事なりけ如来乃
世法ゝあゝざることば女のたとゆるしとなる
をゝ己が勝るよまらせそ雑ゝ神國の人民を
して悉く西の戎の教ゆ和とし入きんさん
そゝをこ大空なるどゝ色國なるゝ物ゝ人の法陽乃事
候も所なるゝみよ志ゝく人常ゆ熱気ふゝるし
み身に衣服を云ゝ事もなく首繋るゝども
暑さ寒さ物ゝ人に延る事を知を編て歩

の巣の如しかくゝ乃如く気候偏なる國なる
人物も偏ふして女にゝざるを衆法をとゝ人程
ゝもあるべゝ和も吾國ゝ天佛中主る乃
市法座ましゝ海と高天原の主ゝ尚を為
國乃中央ゝして法陽中和の風土なるを女
人ゝ法中に陽を含る男ゝゝ陽中に法性具
を友ふ男女ともゆ涼ふ正直ゝ親みたゝ人君民
男ゝひ夫婦兄弟むゝましくゝ物ゝそなふゝ陽を
孔ゝゝ人ゝざゝは絞ひゝ清ゝ陽ゝを天神

地祇よ住しまつりたまくわ栄人正紀成統し
て身まもりていると大乃神域ゆ神留る事
ゆゆしく畏ひあるべゆゆしび彼天空国みく
女人玖賤を恥しとい者分のわ遠ものたうを
でも道い人ふようて引留道人をもつもつ乃
理るふあゝざしい中古礼世乃祈しも神乃
の正たおおろく邪祝異祭行してこが宮門
ゆ引入をとゞかを「とる」神祇を一種
をとび蚊分をもつて云神事を雑行して

称しゝ女人いつもて罪深けをび神明の罪
蒙かるゞ利に為合ゆ世の人をして
神祇をうとんじ只佛ゆ親せん事を深く
其世智為ふたぶゝかをて我本国の神
事をうとをて玉津神社岩を祀し底根乃
国の苦をまゝ祈くうて本云るくに潜ぎるゞ
ゝずや厚ゝくを合朝ゆ女神天照を神乃
市国ゆかゞゆ人に依玉よちゞひ女人を用ひ
神祇よたう人奉かをとそのゝ垂仁天皇之

の皇女倭姫命大和の國泊瀬の室の嶺の上
に宮をつくりて神籬豊鍬入姫命の神懸をうけ
天照大神を鎮め奉る崇神天皇六十年冬
十月の秋志賀野宮に神遷りまして
日六十四年日本武の宮に神遷宮ありて
四年いつきまつる垂仁天皇即位二年伊勢の
國敢都美恵の宮に二年同四年日本坂田
の宮に二年同十年美濃伊久良河の宮
五年伊勢尾張の中間宮に遷りまつる十四年

伊勢國桑名野代宮に四年十八年阿佐加宮に
方行樋宮に四年廿二年飯野に遷宮ありまし
ます垂仁天皇五十九年丙辰三月伊
勢の宮に遷りまつる崇神天皇六年
此時徒田社坂手社荒蒔社鈴鹿社に至る
まで處々に祭ることの其年大田命現ず
倭姫命に出会ひ給ふ神座所をとめ
ひ給ふ神教に従ひ遷宮
活れ又十四年河上に宮柱を蒲立て鎮座まつり

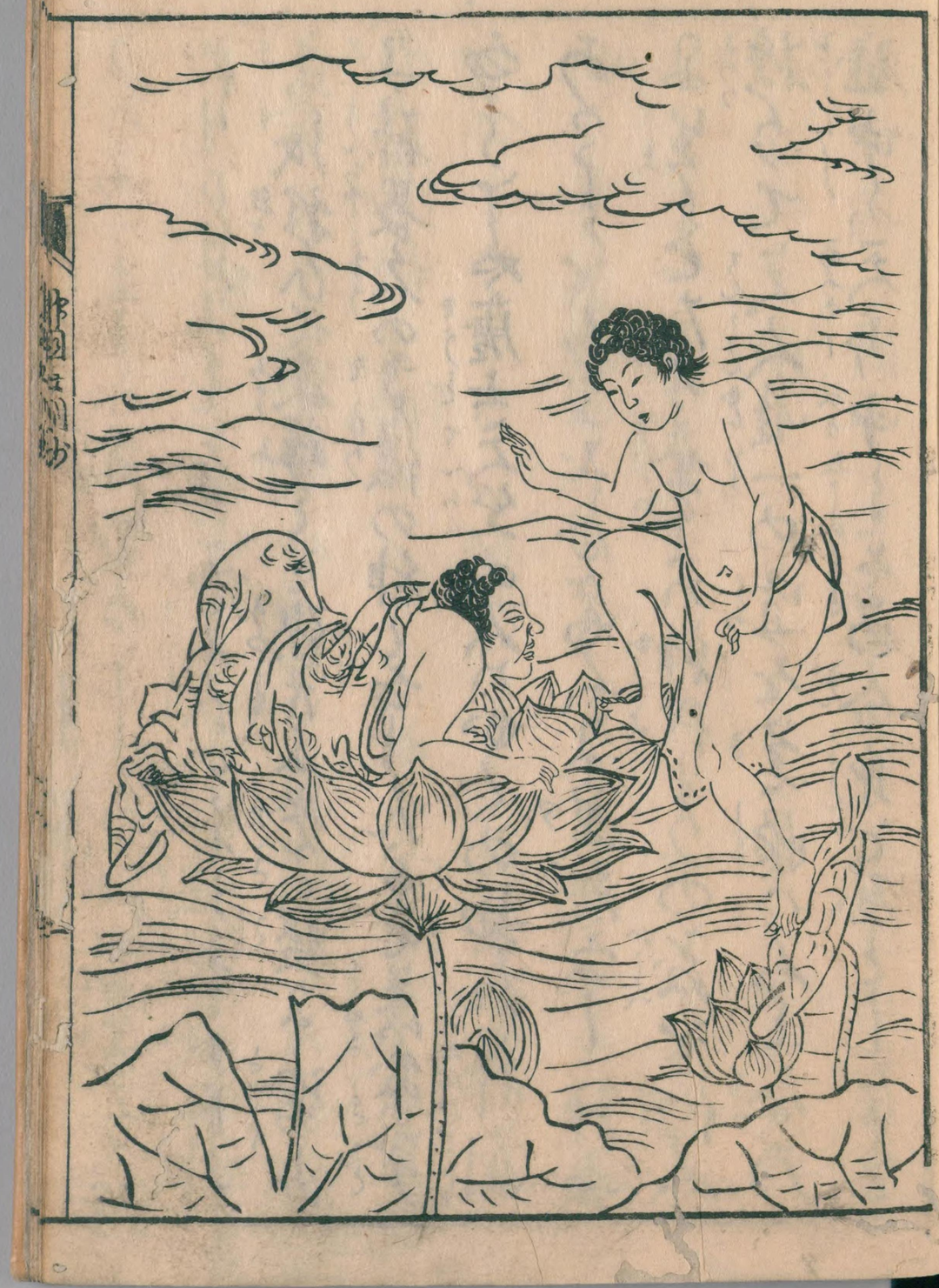
ぬ。其後年移りて倭姫命佛教入百八十余歳の時宮人物部八十氏等仏石集て苦くれとゆるさ久代古仏佛祀宣旨しまき心祈り則天地の本躰仏の則入行の化生仏垂迹仏祈禱をいく先とわ冥加ゆゑ仏事をいく本でしまを天をそひ地ふ事人仏祀宗ゆ祖を弱ふ[illegible]仏宗廟を修て天業をゆさろ又仏法の島を開け仏徳を再ねを日月に明をろ人ろ合成聖をしても

正史の部を照しあつて告げ給ひて自ら
尾上との巣に近づくて岩を分け金剛
隠れ給へる人足則女人神祇より奉る
内外其位より神となる れ殺授るうそとのみ
なりて豊鍬入姫命より斯子内親王迄
伊勢の斎宮七十又代又加茂大神の斎院ふも
源氏天皇の皇女有智内親王より儀子内
親王まで世二代皇皆皇女乃び親王の姫宮
をなく秘法なるの事等の事をもんくて

神祇女人を愛しあつて男子を生なしは
て女人神祇をまいもとい神異抜蒙なるこ
は跡なくもなれ妄説なり女人を言ふ煩ふの
彼の佛菩薩よりて七仏と佛説宝積経新
渭女人地獄使紙断佛種子外面似菩薩
内心如夜叉又一見於女人猶失眼功徳縦雖
見大蛇不見女人と説たり其外佛書
女人を悪と煩ふ事あるて数多
授法品又漢の羅を説たるも一ふい

梵天王となる事をいとこゝろあり
魔王にゝ釋輪聖王又ゝ仏身いのんで
女の身とゝなく速に成仏をえることを得んやと
らう女人ゝこ世の法仏ゝ捨てたまを
只西方乃阿弥陀仏のこ女人の罪障く法華
ゝ捨てたるを憐こに十八願の内三十八
の形ゝ轉女成男とゝ願ぜく女の身あてゝ
成仏をゝぐ女人ゝ男子と変して極楽
国ゝ往生さんこの事こゝ女人をゝみ婦人

の事仏法より基しきれるゝ女を貴ひ
用ゝ事仏乃ゝしくゝるゝ天皇人ゝをもあを
吾女神天照大神の御ゝ生ゝ女ゝ女の
まふゝく生る天ゝ事をゝ
天神七代のゝ神ゝより御夫婦の神化生し
ゝ泥土差ゝ男神御土ゝ女神真次太戸
道ゝ男神大宮ゝ女神伊弉諾ゝ伊
弉冊ゝ夫婦の道を
法陽交合ゝ生ゝ国土海山草木ゝ



の精神を産日月星の神こをもうみ給へ
其外神〻皆夫婦こゝまし〻て海を不死
ふて蓮盤の市樂作くもなをあまり
あり今各國の人こゝ夫婦の契を結び二世
もこゝ世もと誓ひ作るなる彼の女紙妻し
男と成とのゆを牧極樂往生紙遂けたゝい
宣て女神妻して男の神と成るべ一蓮往生
のそらふゝてゝ男二人座したゝゞ勇て二世も
こゝ世もと契をし夫婦の情い男同士のこと

みハあるまし矣門ゞ
住生成求めどもゝ天の神域夢世間乃
乎成形ひて主婦こと法たゝ夢縁ゝ楽み
子孫長久の寿産の神と爲ゝんこと美哉事
ゝゝすゆ唐土天竺の人ハかくの如く神刻
あゝことをゝゝざるゆゑ人ゝ是非なし神也
みまもたゝ幸ゝハ神代ゝのゝを伝へ
授ゝて天人唯一の道を学ハ婚ハ乃
臍中ふ天序中ゝるの分身を産ゝ事

神也我也吾命神也天地同根為始一躰也
何ゝ女を愛ゝて男ゝとゝる事を分ゝん
彼の男子をのゝ貴ひ一向ゝ女人をきゝひ
捨ゝ事天地中和の大乃ふあゝゝ陰陽
和合ゝてゝゝ天地乃道ゝとおゝるゝと日
月の運行も潤ひ人も万物も生育ゝ行ゝ
為ゝゝゝ陽ゝふ女ゝ陽ゝ男ゝ陰ゝとハ伊
ゝゝゝゝ恥をゝるせハ男も罪陰ゝ恥ゝ
ゝハ女も罪ゝ罪ハたゝ

我を吾なりと思ひそなへ日に無事乃
にしりて罪とする有よ吾神乃よ中臣と種
子の穢れいく身に成拂ひ清らく罪科と
悔る兆を改め根元の清浄なる成
穢れをれが自己の神霊天地社神祇み
感通しまして成就ぞんとしてまるし
有み吾を積び言天子の罪を積とり
底根の国よ沉む神代のむらしも大日霊
貴い女神みて清を成ぞとも神徒をぐとと

ぬよ人よ天根成いくと上天よのぐせうひ
素戔嗚尊い男神ありとしらんぐも天上みく
八つの大罪を犯しぬよ人み底根の国よ
逐りとぬよ人間まと言うを男子たりも
罪あるい清よ沉む女神とうもも神ふ任し
をるを男み穢ひ清れいる天原に罪り出
吾こん身の清と濁とる行迹の居を無
とよりのとにのぐ男女の形神をいく縁ぞん
や永くいらとぐよりを神祇の道を考んで法

濁をうしなひて陽生成求わ女人を愛
そ仏法をきらひて女を愛し男神を
厚く男子万国を勝まさる女王国を生れ給た
女神をわて都る自綾んしいくを嫉妬
仏菩薩を取とめるいに帰く未練乃るる
とや況や吾天照大神を始わ奉る天神皆
女神よておとしは皆常住不変の言ふ点に
法るとの法陽二柱の神議より出雲八重垣の
妻籠天孫の神孫等ろるまぬ和

合して子孫繁昌の神授足て深乃天地
物者の大乃御乃法湯編偏の如しと
とかく大地懸湯のね遠乃方とゞ則業
ふ代めしけて業る孫よしのまゝ掃のるさけ
を吾神乃よあゝどんの弟ら其祝を達せん
やけとゝろ成紙くうなんて神祇と
そひまいて多の事正歩本さし
としけて我まよこんなく操正しくまりり
たゝゞ天神地祇の神ら叶家門繁昌子

孫長久ふして遂よの高天原天祖の
御祈ふ久まるて常盤堅石の神授び
めるを代乃樂成るさんうて作く
ゞく祈べき事しを

神国女訓抄終

国立国会図書館　タイトル『神国女訓抄』　請求記号 京-198
ガラス使用

阿波國文庫

日向靈社大神貫道著述

一中臣祓舊傳　既成　二卷　一南遊集　既成　二卷　詩集也

一三教全昺論　全　一三教歸神抄　二卷

一天書紀纂註　三卷　一神國女訓抄　一卷　既成

一神武紀解　既成　二卷　一古語拾遺註　五卷　既成

一神學破邪論　一浪華憑談　前編　近刻

一神国女訓抄後編　嗣出

一和論　後鳥羽院勅撰　十卷　一百八神之註及聖帝親王以御武將　芳女教子之金言悉以記孫之

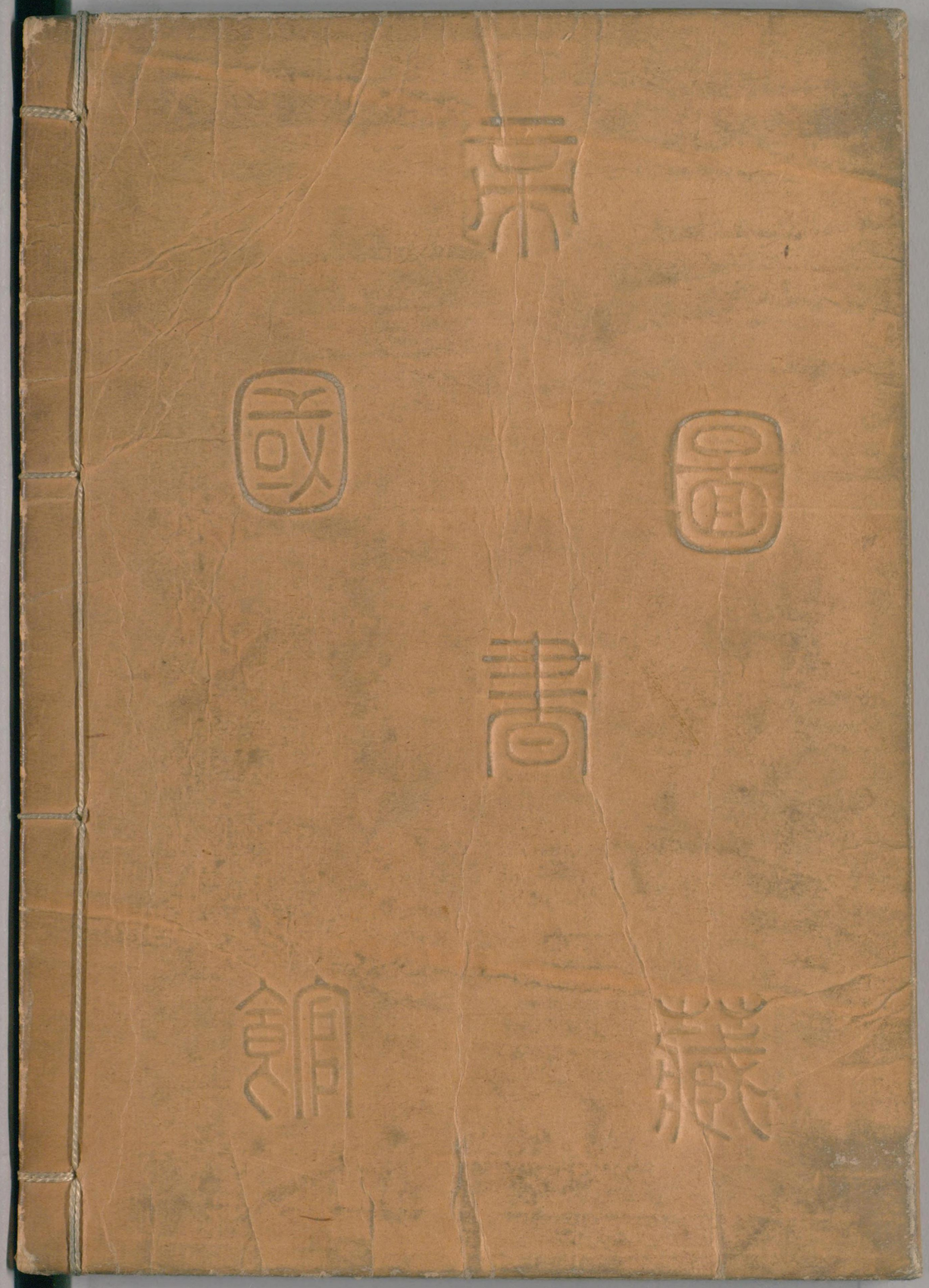
一同評註　嗣出

京
198

浪華書肆

順慶町壹丁目
抱玉軒田原平兵衛梓

国立国会図書館　タイトル『神国女訓抄』　請求記号 京-198
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『神国女訓抄』 請求記号 京-198

ガラス使用